

「白皇」の大玉化に向けた着果管理技術

表1 「白皇」の着果管理方法の概要
(実施時期及び摘果程度)

| 処理区 | 予備摘果 | |
|----------|-----------|------------|
| | 実施時期 | 摘果程度 |
| 早期・強予備摘果 | 満開23~25日後 | 最終着果量の1.5倍 |
| 慣行摘果 | 満開30~31日後 | 最終着果量の2.0倍 |

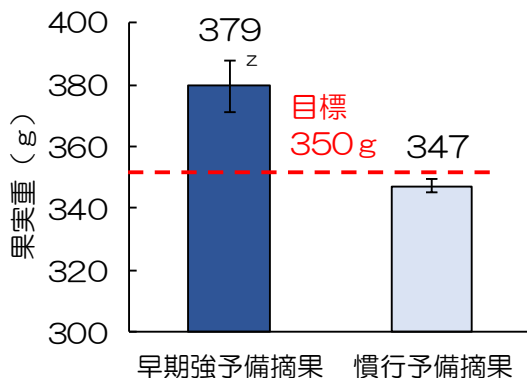


図1 予備摘果方法の違いが「白皇」の果実重に及ぼす影響

z バーは標準誤差

開発のねらい

モモ新品種「白皇」は、糖度が高く食味が良い、日持ち性が良いなど優れた品種特性を有していますが、晩生品種の中ではやや果実が小さい傾向がみられます。そこで、安定して350g程度の大玉果を生産できる着果管理技術を確立しました。

新技術の概要

- 予備摘果を慣行摘果よりも6~7日程度早くから実施するとともに、摘果程度を強めて（最終着果量の1.5倍程度を残す）行います（表1）。仕上げ摘果は、慣行と同時期に同程度（最終着果量）とします。
- 早期に強めの予備摘果を実施すると、350g以上の大玉果比率が高まり、大玉の果実を安定して生産することが可能となります（図1）。

活用場面

予備摘果の早期実施は、労働分散にもつながります。安定して大玉果実を生産することで、市場における付加価値が高くなるため、農業所得の増加に大きく貢献できます。